平成20年度

# 研究だより

南部小学校

Ｈ２０．９．１６

No. ３

＜兼　子＞

## 第３回授業研究会（９月１２日）ご苦労様でした。

ひろの・算数科・「計算の王さまをめざそう！」

村松友子先生の授業から学ぶ

＜成　果＞

【仮説１について】

・「カードめくり」遊びを仕組むことによって，問題場面を身近なものとして捉えられるようにしていた。注目させる手立てが，よかったのではないだろうか。

・簡単なたし算やひき算を，２人が生活の中で使いこなすことができるようにさせることをねらいとし，解決方法の手段として色カード・色磁石など半具体物や数直線を選んで使って考えてみようとさせたことは，今後の学習にも生かされていくのではないだろうか。

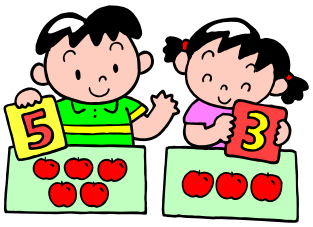
【仮説２について】

・２人だけの学習の中，「ブロックに助けてもらえなかったね。誰に助けてもらう？」などと，教師側が子どもに合うような言葉をかけ，２人が関わり合いながら学習させようという意図が見えた。

・A さんは思考がつながっているが，N さんは思考が途切れ途切れになっている。知的と情緒の学習の違いがあるが，２人の違いを生かして具体物と生活を結びつけたものから関り合いを大切にしていきたい。

＜課　題＞

・筆算は数の概念がないうちは難しい。具体的なものと思考がつながるように操作や繰り返しが必要なのではないだろうか。

・１つのテーマだと集中できないということでコアにして１０分位で進めているが，急いでいる感じがする。教師主導にならないために，算数はＡさん，国語はＮさんを中心に２人のよさを生かした仕組み方の工夫が必要である。

・理解という点で，この時間でどんな力をつけたいかをしぼり明確にし，しっかりと定着し身につけさせ，２人の関わりの中で広げていくということが大切である。